

日本小児アレルギー学会に行ってきました！

去った10月8日（土）、9日（日）に「**第53回日本小児アレルギー学会**」が、群馬県前橋市で行われました。丁度40年前、私は群馬大学医学部を卒業しましたが、それ以来の前橋でした。学会の前日に学生時代にお世話になった人々、下宿のおじさんやおばさん、パン屋のおばさん、近所の開業医の先生などを訪ねて行きましたが、すでにお亡くなりになった人やぎりぎりセーフでお会いできた人がいました。40年は長かったです。いつでも会えると錯覚していました。お世話になった感謝の気持ちを伝えることができず、去って行った人たちに対して申し訳なく無念さだけが残りました。

さて、**学会の演題は、約6割が「食物アレルギー関連」**で、その他は乳幼児喘息やアトピー性皮膚炎などでした。私は25年前に食物アレルギーに興味を持ち始めましたが、その時にはほとんどが喘息関連で、**食物アレルギーの演題は1割程度の少数派**でしたので、隔世の感があります。

現在の喘息治療は、発作を起こさせない予防薬としてのロイコトリエン拮抗剤（オノン、シングレア、キプレス）や吸入ステロイド剤（フルタイド、アドエア、パルミコートなど）により発作のコントロールが格段に進歩しました。

以前は発作時の気管支拡張剤の内服や吸入が主で、**鍛錬（たんれん）療法**と言って、水泳や水かぶり、乾布摩擦など身体を鍛えるのが長期管理法でした。

「**食物アレルギー**」の最近の話題では、ピーナッツや離乳食（卵など）を6ヶ月以前の**早期に開始すると将来そのアレルギーになり難い**、という報告が目立ちました。つまり**離乳食を遅**

らせるのではなく、むしろ早めに開始する方がアレルギーになり難いという奨めです。しかし、反論も出てきておりまだ結論は出ていません。

そして**衛生仮説**と言いますが、**環境整備をした方がアレルギーは増える傾向がある**、つまり不潔の環境がむしろアレルギーになり難いということです。余り清潔になり過ぎるのも問題なのです。

また妊婦が、**ビフィズス菌など乳酸菌**を産前と産後に継続的に摂取すると、児のアレルギー発症阻止に有効であるという報告がありました。産後から初めた場合には効果が半減する様です。

新生児への保湿剤の塗布が、その後のアトピー性皮膚炎の発症阻止に有効ということでした。1~4か月児でアトピー性皮膚炎があれば、食物アレルギーや喘息の発症率が高くなるようです。以前は「**食物アレルギー**」がアトピー性皮膚炎の原因と考えられていましたが、最近では逆に**湿疹があると「食物アレルギー」になると指摘**しています。つまり、**湿疹（皮膚）から食物感作（食物に対するアレルギー反応）やダニ感作が成立する**という事です。

英国のピーナッツアレルギー児の多くがピーナッツオイルのマッサージを受けていたことや「**茶のしずく石鹼**」による小麦アレルギー発症は、皮膚を通しての「**食物アレルギー**」を示唆しています。

まず湿疹を軟膏や保湿剤で早期に改善することが、**食物アレルギーや喘息を悪化進行させない**ということです。

学会終了後は息子と伊香保温泉を満喫してきましたが、貧乏学生時代には出来なかったことでした。
(たまなは)